

この事例の行為について

高齢者を「ばあちゃん」と呼ぶ行為は、親しみを込めたつもりでも高齢者の尊厳を傷つける発言と捉えられる場合もあることから、**心理的虐待**と考えられます。

本人の合意なく、高齢者の財産を処分することは、**経済的虐待**と考えられます。高齢者のために思い、良かれと思って洋服を処分した場合でも、勝手に人の物を処分する行為は、**窃盗罪や器物破損罪**にあたります。

防止のためのポイント

<個人でできること>

●自分のケアを振り返ってみましょう

・高齢者の尊厳を傷つけない言動について考える

◆親しみを込めた呼び方

◆親しさと馴れ馴れしさの違い

(高齢者の気持ちを言葉だけではなく、表情や反応等からもくみ取ろうとする姿勢をもつ)

・高齢者の財産について考える

◆財産とは、高齢者の持ち物全てであるため、服や貴金属はもちろんのこと、飲食物やティッシュなどの消耗品も含まれる

◆財産の要不要は、高齢者本人に判断できないため、介護者が勝手に処分してはならない

●気になる言動を見かけた際には同僚や上司に相談・報告しましょう

<チームでできること>

●高齢者の情報を共有し、対策を統一しましょう

・情報共有・意見交換の機会を設ける ⇒ 高齢者の対応方法の見直し

・高齢者の心情をチーム全体で検討・推察していく

・高齢者が大切にしているものに関して、情報がある場合は共有し、間違って処分、紛失することがないように注意する

・高齢者より、財産の処分の申し入れが合った場合、高齢者の管理能力に問題はないか、見当識障害や言動に問題がないか等、多角的に観察、評価した上で、必要な対応を検討する

●相談しやすい雰囲気、風通しの良いチームを作りましょう

・虐待につながる可能性のある気になる言動を放置しない職員間の関係を作る

⇒ 日頃から、高齢者の対応方法やケア方法に疑問があれば、声を掛け合う、等

・リーダー等を中心に話し合える機会を持つ

・なんでも相談できる安心感（心理的安全性）を確保する

<組織でできること>

●素早く対応できる体制を作りましょう

・不適切なケアや高齢者虐待に気付くための取り組みを考える

・今回の事例は、窃盗罪や犯罪にも該当するため、警察への通報等も考える必要がある

・「虐待」では処罰はないが、刑法では罪を負うことになるため、管理者が犯罪に該当する行為を行っていることを、法人としてどのように対応するか方針を明確にする必要がある

・情報が共有される仕組みを構築する

- ・対策を検討する組織（虐待防止委員会など）・役割を明確にする

●虐待防止のために普段から取り組みましょう

- ・高齢者虐待防止に関する学習の機会を定期的に設ける
- ・学習した内容が実践に活かされているかを確認、評価する
- ・高齢者の理解とそれに基づいた適切なケアの提供について学習することで高齢者虐待が発生しない環境を作る